

## 海馬歯状回成熟顆粒細胞のセロトニン 1A 受容体は抗うつ薬効果に不可欠である

選択的セロトニン再取り込阻害剤 (SSRI) は抗うつ薬として広く用いられているが、それらの作用機序は余り知られていない。成体海馬歯状回における神経新生は SSRI の効果に必要であることが分かっているが、成熟顆粒細胞の必要性は明らかになっていない。今回、著者らは海馬歯状回成熟顆粒細胞で (SSRI の反応に必要な) セロトニン 1A 受容体を欠損させたマウスを用いることで、フルオキセチン投与におけるうつ行動の改善や血漿中コルチコステロン量の減少が消失することを明らかにした。成体脳で新たに生まれた顆粒細胞でのみ同受容体を欠損させた場合はフルオキセチンの効果は正常であった。以上から歯状回顆粒細胞のセロトニン 1A 受容体は抗うつ薬の反応に不可欠であることが明らかとなった。これらの実験により、歯状回成体新生ニューロンだけではなく、成熟顆粒細胞も抗うつ薬の効果に重要な働きを持つことが示唆された。